

横山地区の風景「稲積山といろは川」



春には稲積山登山、夏にはいろは川でホタル鑑賞が楽しめます



このコーナーでは、小学校区単位（地区）でまとまって地域活動に取り組む「地域コミュニティ組織」をご紹介します。



横山地区まちづくり協議会

いろは川 稲積山に小倉池 古き文化の香る郷 横山



ホームページ

通学路の安全を守る！



横山地区全員へのアンケート調査を実施した際「街灯がない」「木が生い茂り昼でも暗い道」といった中学生からの不安の声があることを知りました。そこで横山まち協の安全・安心部会員は、自転車での通学路点検を夕暮れ時に実施。点検結果をもとに要望書を提出し、昼でも薄暗い電柱もなかった通学路に防犯灯の明かりが灯りました。

地域の安全を守り、
交流の場をつくる！

活動の一部をご紹介します

新たにお祭りが誕生！



事務局
稲積さん

また「みんなで集まる祭りがしたい」という小学生の思いは令和元年11月17日に『横山イキイキ健康祭り』として実現し、横山小の太鼓、西部中学校吹奏楽部の演奏をはじめ、大きな歓声と笑い声が横山の空に響き渡りました。
立ち上がったばかりの横山地区まちづくり協議会は、次世代に継承すべき持続可能な横山を目指した住民主体のまちづくりを進めています。

横山地区の散歩
おすすめスポット

「天福寺奥の院」からの眺めは絶景！

四日市から県道44号を耶馬溪方面に車で5分ほど走ると、右手の山の中腹にぽかんとあいた穴が見えます。そこが天福寺奥の院です。車を進めると川沿いに「天福寺奥の院入口」という柱があり、そこから徒歩で山道を20～30分ほど登ると到着です。
※途中、石段が壊れているところがあるので注意してください。



問合せ／まちづくり推進課 コミュニティ係（☎ 27-8237）

蓑虫山人は天保7年(1836年)、美濃(今の岐阜県)に生まれ、本名を土岐源吾といいます。

14歳の時、母と死別、放浪の旅に出ます。美濃出身と風雨に耐えて枝にぶら下がる蓑虫になぞらえて「蓑虫山人」と号しました。勤王の志士でもあり、同志と共に生野銀山に尊王討幕の義挙を決行するも敗れています。

宇佐市へは元治元年(1864年)5月から約3カ月間、大庄屋であった麻生村の山口家に滞在し絵日記を残しています。旧宇佐市初代市長の山口馬城次氏は、絵日記の複製発行によせて《当家に身を寄せていた間、彼は宇佐神宮を初めとするこの地方の名所旧跡、文人墨客を訪ねては、その印象を画帖にしたためています。それには江戸時代末期の風物と世相が活写されており、文化財としての高い内容を有しております》と記しています。



画像提供/㈱ディスプレイ・ジャパン

絵日記から宇佐市における蓑虫山人の足跡を辿ってみます。名所旧跡としては、宇佐神宮、御許山、東椎屋・福貴野の滝、中津城、羅漢寺、耶馬溪などを訪れ、宇佐神宮奉幣祭(勅祭)も見学しています。文人墨客では、猿渡村の医者である笥白雅、日本三大本草学者の一人である賀来飛霞宅などを訪問しています。次回は絵日記の様子などを紹介します。

平和ミュージアム(仮称)開館に向けて
kioku wo tsunagu

記憶をつなぐ

このコーナーでは「宇佐市平和ミュージアム(仮称)資料館」の開館に向け、これまで収集した資料や今に残る戦争遺構にまつわる「記憶」を紹介していきます。

26 「少国民の海軍」「少国民の陸軍」

昭和17年9月に発行された子ども向けの軍隊の案内書です。前年4月、戦時体制に即応するため小学校が国民学校と改められると、小学生くらいの子どもたちは年少の国民という意味で「少国民」と呼ばれました。当時は天皇のために尽くす国民の育成が教育の目標とされ、学校での軍事教練なども課されました。



■ 戦争関連資料を収集しています。提供していただける方は社会教育課 文化財係(☎27-8199)にご連絡ください。資料は平和の尊さを学ぶために活用いたします。

問合せ 社会教育課 平和ミュージアム建設準備室(☎27-8200)